

「劇団そとぼこまち」は、青春時代そのものでした。とんでもないことを思いつくことに意義を感じ、それをやり遂げることに熱中し、食べることに執着し、一つ寝る向を惜しむ、7年向があつたという向に過ぎました。楽しい思い出ばかりです。もちろん、後悔も数え切れなほどありますが、青春とは後悔の積み重ね。あの時代がなかつたら、今の僕は存在していません。

「劇団車塚婆小町」は、この年に旗揚げしました。僕は、翌年に入団。その翌年に創設メンバーの先輩方と袂を分かち、劇団名を平仮名に変え、そのまた翌年、僕は四代目の座長に。実は新しい座長、坂田大地君は九代目になるわけですが、「劇団そとぼこまち」として再出発してからは七代目。どうせなら鼓が多い方がいいのに……と思うのですが。

いざれにしても、長い長い歴史です。座長が変わる度に、芝居の色も劇団の色も変わる。誠に変な集団。「はりけーん ばんび」なんてふざけた名前をつけていた奴もいました。そう、川下大洋君です。僕も「つみつくろう」なんて、人を喰ったような名前をつけて料がついていましたから、人のことは言えませんが。彼も今回の公演に出演すると聞き、ちよつと羨ましいような、嬉しいような、不思議な気持ちになりました。

とまれ、20年向も続いている劇団ですから、次は、とりあえず25年ぐらいを目指してください。この色々を意味で困難な時代を、新たな地平を目指し、泳ぎ続けてください。

今でも、「学生時代によく『そとぼ』を見てました」「妻がファンでしてねえ……」などという話をよく耳にします。嬉しいものですね。胸がざわつきます。遠い目をしているのを、感ずかれています。もしかかもしれません。「劇団そとぼこまち」は、永遠に僕の誇りです。